

講演者、パネラーの紹介



西澤 潤一 (学) 上智学院顧問 上智大学特任教授

世界の研究者に先駆け 1950 年代から光通信の可能性に注目、光通信の基礎技術を考案。Pin ダイオード、静電誘導トランジスタの発明、半導体材料完全結晶化技術開発。「光通信の父」、「ミスター半導体」とも呼ばれている。最近、電磁波「テラヘルツ波」による癌診断、がん治療研究成果を発表。

1926 年宮城県仙台市生まれ。東北大学工学部電気工学科卒、同教授、半導体研究所長、東北大学総長、岩手県立大学長、首都大学東京学長、日本原子力産業協会会長、日本工学アカデミー会長、国際工学アカデミー連合会長歴任。文化勲章、勲 1 等瑞宝章受章。ジャック・A・モートン賞、エジソンメダルズ賞受賞（エジソン、ベルら 20 世紀を代表する科学者の名を冠した賞。日本人では初めて）。また西澤氏の業績をたたえた「西澤メダルズ」が創設される。2004 年から毎年、電子工学や材料化学などの分野で顕著な成果を挙げた個人や団体に贈呈されている。日本学士院会員、工学博士

主な著書：「教育亡国を救う」「私の独創教育論」「日本人よ ロマンを」「技術大国・日本の未来を読む」「十年先を読む」発想法」「戦略的独創開発」「オプトエレクトロニクス」「半導体装置」など多数。

「信ずべき他人の居なくなった今の社会に、責任感のある信ずべき人達と連繋することは千万の味方を得た喜びとなる。何度も自裁を思った筆者を救ってくれたのは、共に追求し、共に励んだ昔の協力者だった。今再びこれらの老若を問わぬ昔の仲間が、私の仕事を展開させてくれている。この信頼に報いねばならぬ。人類の危機を避けるために。」



古川 和男 (株) トリウム テック ソリューション 社長

1927 年 大分県生まれ、京都大学理学部化学科卒、東北大学金属材料研究所 無機液体構造化学研究 英国科学工業研究省特別研究費で London 大学物理教室へ招聘。東北大学助教授、日本原子力研究所出向、高温融体の核エネルギー利用研究。材料工学研究室長、ナトリウム研究室長、動力炉開発推進本部（総理府）専門委員、主任研究員、高温融体材料研究室長 東海大学開発技術研究所教授、退職。

トリウム熔融塩国際研究所所長、NPO トリウム熔融塩国際フォーラム理事長、2011 年 4 月より上記、社長 (CEO)

理学博士（京都大学：1960 年 9 月）『熔融体の構造の研究』 Ukrainian Academy of Science : foreign member; International Disordered-System Associates : former President 熔融塩熱技術研究協会：元会長、70 件以上の特許。佐藤栄作記念国連大学協賛財団 応募論文 [核拡散防止] 最優秀賞

著書：“「原発安全革命」”：“「文春新書」文芸春秋社（増補新版 2011.5）「地球を救うために新しい原子力を！トリウム熔融塩炉」「岐路に立つ原子力」リリエンソール著 / 古川和男訳他専門書多数。

論文・解説等：無機液体構造関係、融体技術関係、トリウムエネルギー関係数百篇あり。



木下 幹康 (財) 電力中央研究所原子力技術研究所特別嘱託

應義塾大学工学部卒同大学院工学研究科修士課程修了工学博士（東京大学） 学術界（大学・国立研究所）と発電現場を行き来し、問題を発見し解決する研究を 30 年間携る。方法論の特徴は物理学的視点での現象の発見、非線形数学モデルの構築、国際ネットワーク（プロジェクト研究）活用。

実績例は、安全審査と発電炉燃料挙動解析コードの開発（1980 年代）。

1994 年 IAEA の命で中国核能研究所（北京）で技術講習。1994 年より国際共同研究 HBRP（軽水炉燃料の高燃焼時実験プロジェクト）を企画、プロジェクトマネージャとして運営。現象（細粒化）発生のしきい温度と燃焼度を同定（2001 年終了）。2004 年原子力委員会の命で新クロスオーバー研究プロジェクトリーダーに就任。原子炉内 UO₂ の高燃焼組織変化（細粒化）を炉外加速器照射で模擬的再現に成功。計算科学で機構解明を進め 2009 年終了。現在は、照射下材料現象のうちセラミックスの酸素挙動（ナノ結晶）を中心に仏・米と共同研究中。

UO₂ とトリウム (ThO₂) の比較研究に着手している。

経済産業省原子力安全基盤小委員会委員、経済産業省原子炉安全小委員会燃料ワーキンググループ委員、経済産業省総合資源エネルギー調査会臨時委員、原子力学会標準委員会発電炉専門部会委員、日本原子力研究開発機構高度化軽水炉燃料事故時挙動調査分科会委員



小野 章昌 コンサルタント

東京大学工学部鉱山学科卒、三井物産（株）にて資源開発、原子燃料ビジネスに携わる退職後コンサルタント（以下、最近の講演より）

「原子力発電の未来を問う！ Part 2」パネリスト：宇田川敬介（ジャーナリスト・国会新聞社編集次長）小野章昌（元三井物産原子燃料部長）再生時間：57:39 [桜 H23/5/14]

「福島第一原発事故と世界のエネルギー・環境問題」

① 原発問題、② 低炭素社会に向けた再生可能エネルギーの可能性等について、諸外国の事例などの報告を交えながら討論を行いました。主催：弁護士会連合会（USTREAM にて配信中）



嶋矢 志郎 (財) 地球環境財団 理事長

1961 年早稲田大学政経学部卒、日本経済新聞社（記者職）入社、論説副主幹 / 論説委員を最後に、大学教授へ転じ、広島市立大学国際学部 / 大学院国際学研究所教授兼学部長兼評議員、芝浦工業大学大学院工学マネジメント研究科教授、同大学先端工学研究機構客員教授等を経て、現職に至る。

この間、政府、中央官庁、地方自治体等の各種委員など公職を多数歴任する一方、筑波大学など 10 余の大学 / 大学院での非常勤講師、新聞、雑誌への定期寄稿、テレビ東京のニュースキャスター、ラジオ日経のパーソナリティー等、各種マスメディアにレギュラー出演。

専門は、地球社会論、現代文明論、環境共生論、環境経営論、CSR 論。著書 / 論文多数。